

環境経営活動レポート

2023 年度

【対象期間 2023 年 6 月 ~ 2024 年 5 月】

発行日 2024 年 6 月 27 日

更新日 2025 年 1 月 20 日



【目次】

1. ご挨拶	P.3
2. 会社概要	P.3
3. 環境経営方針	P.4
4. 環境への取組	P.5
5. 環境経営目標	P.6
6. 環境活動の取組内容	P.7
7. 環境活動の取組結果	P.8
8. 環境活動の取組評価	P.10
9. 代表者による全体評価と見直しの結果	P.11
10. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	P.12

1. ご挨拶

創業は大正 12 年と非常に古いのですが、私達の気持ちはベンチャー企業です。4 代目佐野が代表になってから、物流におけるパッケージのソリューションをはじめました。これまでの常識では実現不可能と思われるパッケージや緩衝材にも果敢に挑戦しております。誰も思いつかないような素晴らしいアイデアやデザインに、お客様が出逢い、感動して喜んで頂けること。それが私達の喜びです。

私達はこれからも、変化し続ける物流に適應し、果敢に挑戦するパッケージのソリューション企業であり続けます。

2. 会社概要

- 商号 梅花堂紙業株式会社
- 代表者 代表取締役 佐野 博政
- 所在地 〒462-0831
名古屋市北区域東町 3-73
TEL 052-915-0130
FAX 052-915-0134
- 事業内容 梱包材・緩衝材の企画・設計・製造・販売、
梱包材・緩衝材のネット販売
- 資本金 1 億円
- 従業員数 29 名

【製品紹介】



3. 環境経営方針

■環境理念■

弊社は、ますます深刻化する地球温暖化や、今後予想される地下資源の枯渇への対応が人類共通の重要課題との認識にたち、パッケージの製造・販売事業活動において、材料使用量を削減した設計提案や、梱包作業時におけるアッセンブルの効率化を考慮した企画を行ないます。また、環境負荷の低減を図るために、全社一丸となって自主的・積極的に、環境保全活動に取り組みます。

■環境保全への行動指針■

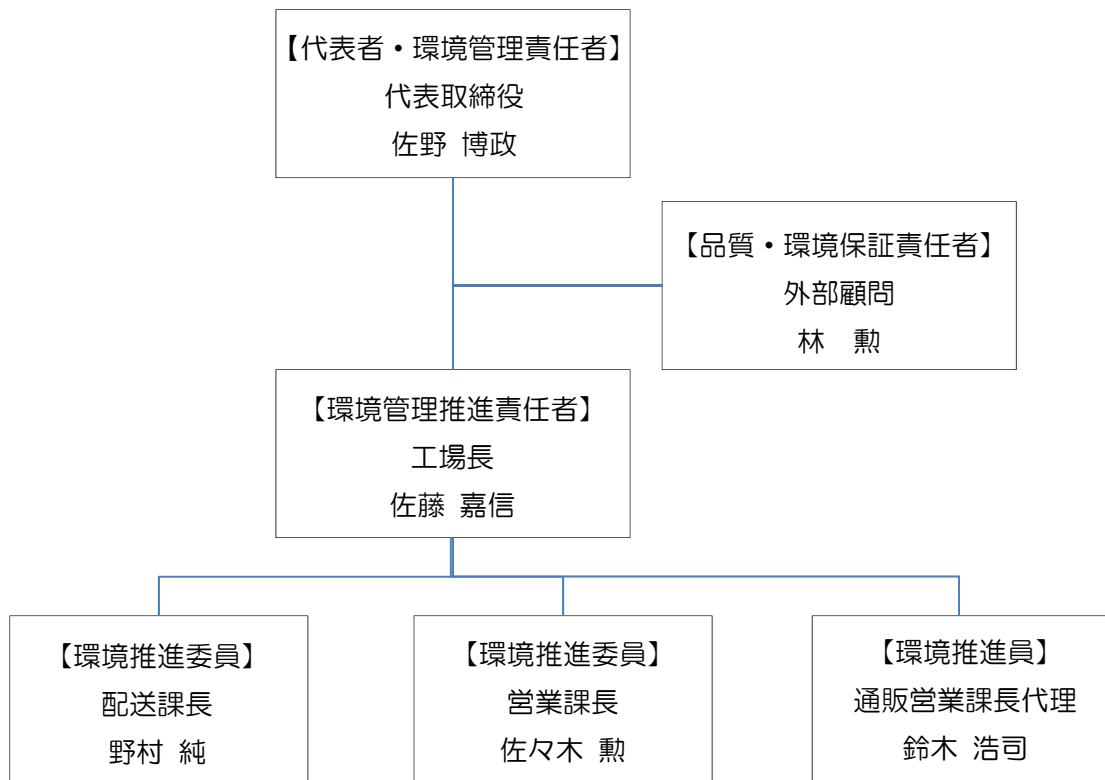
1. 事業活動の全ての業務において、省エネルギー・省資源・廃棄物削減・リサイクルに努めます。
2. 環境に負担の少ない省エネルギーに配慮した設計に努め、横持ち運搬を含む、配送効率を改善し続けることで、二酸化炭素排出量削減に努めます。
3. 環境目標を設定し、その達成に努め、環境負荷の継続的低減に努めます。
4. 「持続可能な開発目標」に向けたSDGsの取り組みに努めます。
5. 環境に関する法令や条例、規則及び地元との協定を遵守します。
6. 環境方針を全社員に周知徹底し、一丸となって環境保全を目指し、外部に対しても求めに応じて開示します。

2024年 6月20日
梅花堂紙業株式会社
代表取締役 佐野 博政

4. 環境への取組

■環境活動実施体制■

下記の通り環境管理委員会を組織し、当社の「全社員」「全活動」を対象として、環境負荷データの共有及び、環境負荷低減活動の計画・立案・実施・結果の検証を行なう



【役割・責任・権限】		
役割	担当者	責任・権限
代表者 環境管理責任者	代表取締役	①環境方針作成 ②環境担当任命 ③環境負荷削減計画の立案 ④環境方針の見直し ⑤環境管理システムの見直し ⑥環境活動レポートの承認
品質・環境保証責任者	執行役員	①取組状況の確認 ②環境関連法規（条例・地域協定）の変更に伴う環境活動の見直し
環境管理推進責任者	工場長	①環境管理委員会を開催 ②環境負荷削減計画の運営・推進 ③運営実績を代表者に報告 ④環境活動レポートの作成・公開
環境推進委員	営業課長 通販営業部長 配送主任	①環境管理計画の実施 ②構内作業・配送作業における廃棄物の分別と適正処理の推進 ③環境活動の徹底 ④実施状況確認

5. 環境経営目標

■2022年度・23年度・24年度の具体的目標と行動■

【目標1】電力の削減活動

2022年度：2021年度の電力使用量に対するCO₂-kgの0.5%削減を目指します。
2023年度：2022年度の電力使用量に対するCO₂-kgの0.5%削減を目指します。
2024年度：2023年度の電力使用量に対するCO₂-kgの0.5%削減を目指します。

※売上原単位による

【目標2】自動車燃料の削減活動

2022年度：2021年度の自動車燃費使用量に対するCO₂-kgの0.5%削減を目指します
2023年度：2022年度の自動車燃費使用量に対するCO₂-kgの0.5%削減を目指します。
2024年度：2023年度の自動車燃費使用量に対するCO₂-kgの0.5%削減を目指します

※売上原単位による

【目標3】水道水の削減活動

2022年度：2021年度の水道水使用量m³の0.5%削減を目指します。
2023年度：2022年度の水道水使用量m³の0.5%削減を目指します。
2024年度：2023年度の水道水使用量m³の0.5%削減を目指します。

※売上原単位による

【目標4】グリーン購入に関する活動

2016年度以降は、これまでの調査を活かしグリーン購入を各現場で10件以上実施します。

【目標5】設計における材料削減活動

2022年度：パッケージの製造・販売事業活動において、材料使用量を2021年度の0.5%削減した設計提案を目指します。
2023年度：パッケージの製造・販売事業活動において、材料使用量を2022年度の0.5%削減した設計提案を目指します。
2024年度：パッケージの製造・販売事業活動において、材料使用量を2023年度の0.5%削減した設計提案を目指します。

【目標6】梱包作業改善活動

2022年度：梱包作業におけるアッセンブルの効率化を考慮し、梱包作業時間を2021年度の5%短縮できる企画を行います。
2023年度：梱包作業におけるアッセンブルの効率化を考慮し、梱包作業時間を2022年度の5%短縮できる企画を行います。
2024年度：梱包作業におけるアッセンブルの効率化を考慮し、梱包作業時間を2023年度の5%短縮できる企画を行います。

【目標7】エコアクション21の啓発活動

2022年度 2023年度 2024年度：
環境教育と啓発活動を推進し、エコアクション21環境システムを、社員全員と協力会社と連携して更なる効果を高めてまいります。

【目標8】廃棄物の削減・リユース活動

2022年度：環境教育と啓発活動を推進し、エコアクション21環境システムを、社員全員と協力会社と連携して更なる効果を高めてまいります。
2023年度：環境教育と啓発活動を推進し、エコアクション21環境システムを、社員全員と協力会社と連携して更なる効果を高めてまいります。
2024年度：環境教育と啓発活動を推進し、エコアクション21環境システムを、社員全員と協力会社と連携して更なる効果を高めてまいります。

6. 環境活動の取組内容

【2022 年度】

■計画・目標に対する具体的取組内容■

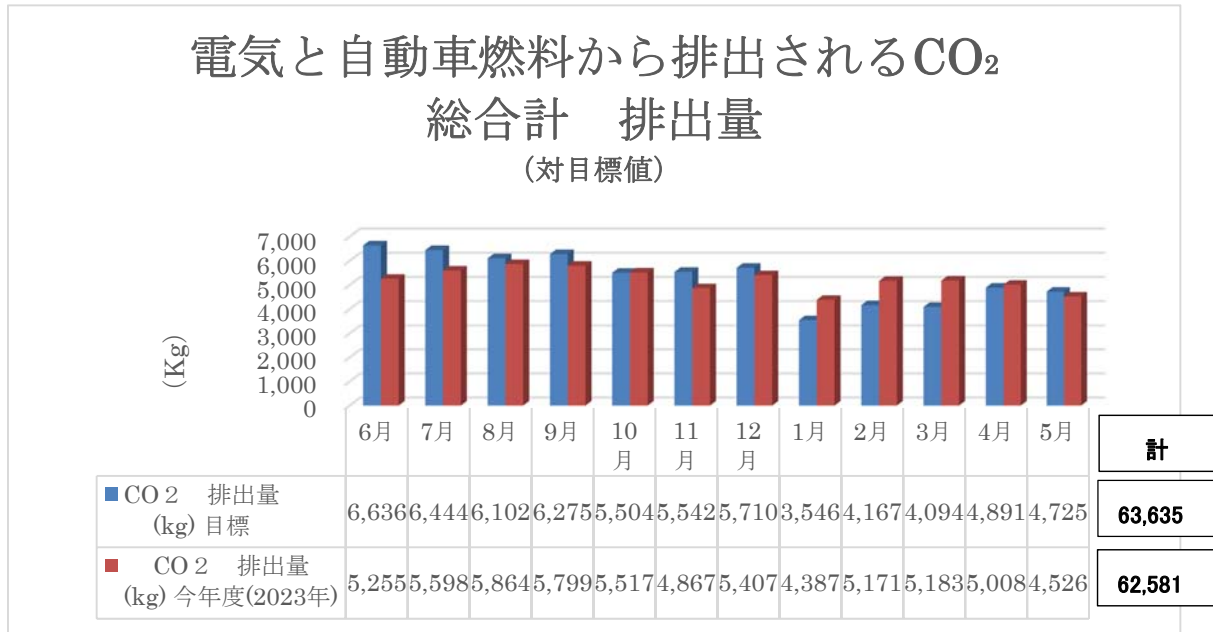
目標	活動対象	削減目標値	具体的活動内容	責任者
【目標1】 電力使用量の削減活動	事務所	0.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコンの電源ONにする外気温、冷房時(28℃)暖房時(20℃)とする ・使用時以外は、照明、機械設備、パソコン、の電源をOFFにする ・全ての照明をLEDに切替える(13年11月現在90%切替済み) ・使用する家電製品を交換時、省エネタイプに切替える(80%切替済) ・残業を減らし、19:00には全員完全撤収できるようにする ・クールビズ、ウォームビズ運動の実施 	佐々木
	工場			佐藤
	倉庫			佐藤・野村
【目標2】 自動車燃料の削減活動	ガソリン 使用料	0.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・買換時、エコカーを導入する(25%切替済) ・アイドリングSTOPを徹底する ・配送効率を随時見直し、輸送距離と時間の短縮に努める 	佐々木
	軽油 使用料			野村
【目標3】 水道水の削減活動	事務所	0.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所、工場で使用使用するタオル類などを貯め置きすることで、洗濯回数を週2回から、週一回に減らす ・全水道蛇口を節水コマパッキンに取り換える ・各自の節水意識を高めるため、お互い指摘、確認しあう環境づくり 	佐々木
	工場			佐藤
	倉庫			佐藤・野村
【目標4】 グリーン購入に関する活動	事務所	10件	グリーンマークの商品が増えており(殆どの商品が対象になってきた)、無駄遣いすること無く各自が必要に応じて営業事務に申請し、課長に承認を経て購入を行う	佐々木
	工場	10件		佐藤
	倉庫	10件		佐藤・野村
【目標5】 設計における材料削減活動	パッケージ設計・製造事業部	0.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・材料使用量を10%以上削減した設計提案をおこなう ・製品の製造コストを10%以上短縮できる設計をおこなう ・製品の在庫スペースを10%以上削減できる設計、提案をおこなう 	鈴木雄大
	ネット販売事業部			<ul style="list-style-type: none"> ・出荷処理における伝票のプリント枚数を、システム変更により15%削減する ・製品の顧客ニーズサイズ最適化に伴い、歩留まり率90%以上の実現
【目標6】 梱包作業改善活動	パッケージ設計・製造事業部	5.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・顧客先での梱包作業時間を5%短縮できる設計提案をおこなう ・顧客先での在庫スペースと管理業務を5%以上削減できる設計、提案をおこなう 	鈴木雄大
	ネット販売事業部			<ul style="list-style-type: none"> ・顧客先での梱包作業時間を5%短縮できる製品提案をおこなう ・顧客先での在庫スペースと管理業務を5%以上削減できる集梱形態での販売、提案をおこなう
【目標7】 EPA21の啓発活動	パッケージ設計・製造事業部	社員全員に周知徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・環境目標数値の完全理解、そして、数値目標必達のための意識改革 ・日々、朝礼で、目標数値と現実の乖離確認作業、そして、活動修正 	佐藤
	ネット販売事業部	社員全員に周知徹底		鈴木雄大
【目標8】 廃棄物の削減・リユース活動	パッケージ設計・製造事業部	社員全員に周知徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育と啓発活動を推進し、エコアクション21環境システムを、社員全員と協力会社と連携して更なる効果を高めてまいります。 	佐藤
	ネット販売事業部	社員全員に周知徹底		鈴木雄大

7. 環境経営活動の取組結果

■ 具体的活動に伴う取組結果 ■

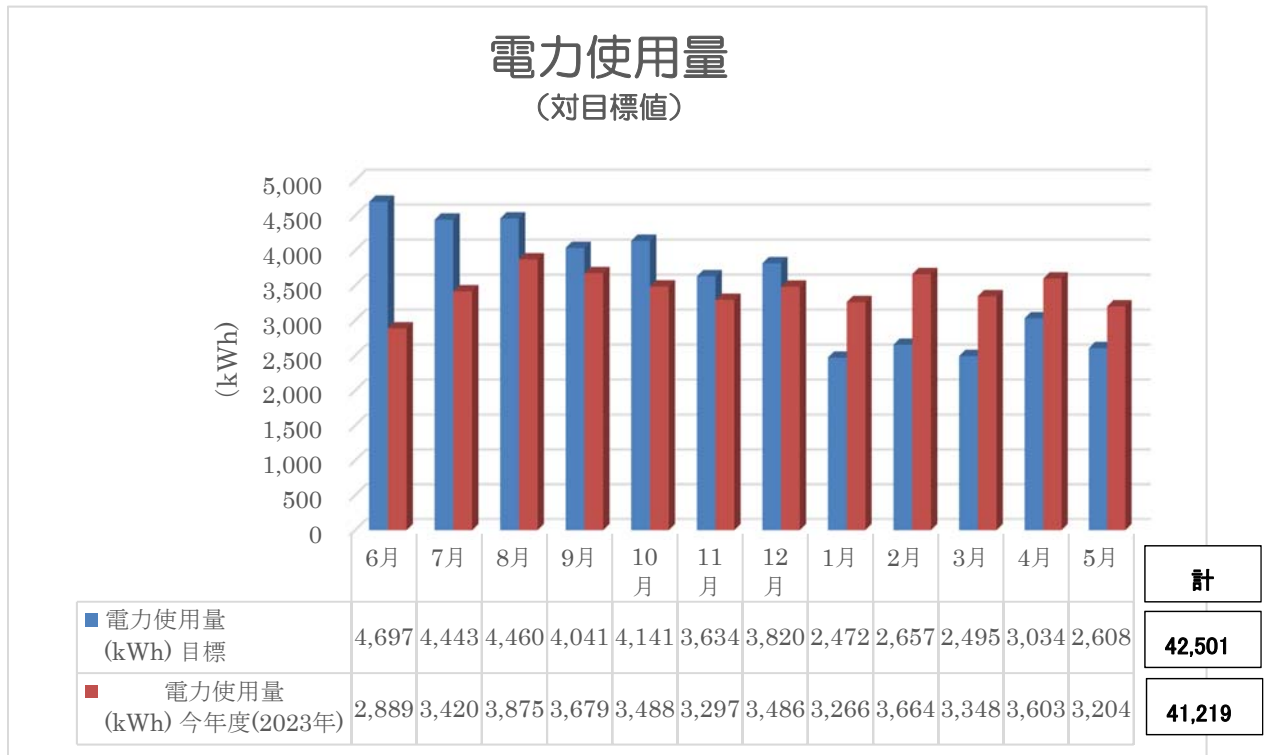
【電力使用量+自動車燃料使用量による CO2 排出量】

「グラフ①」

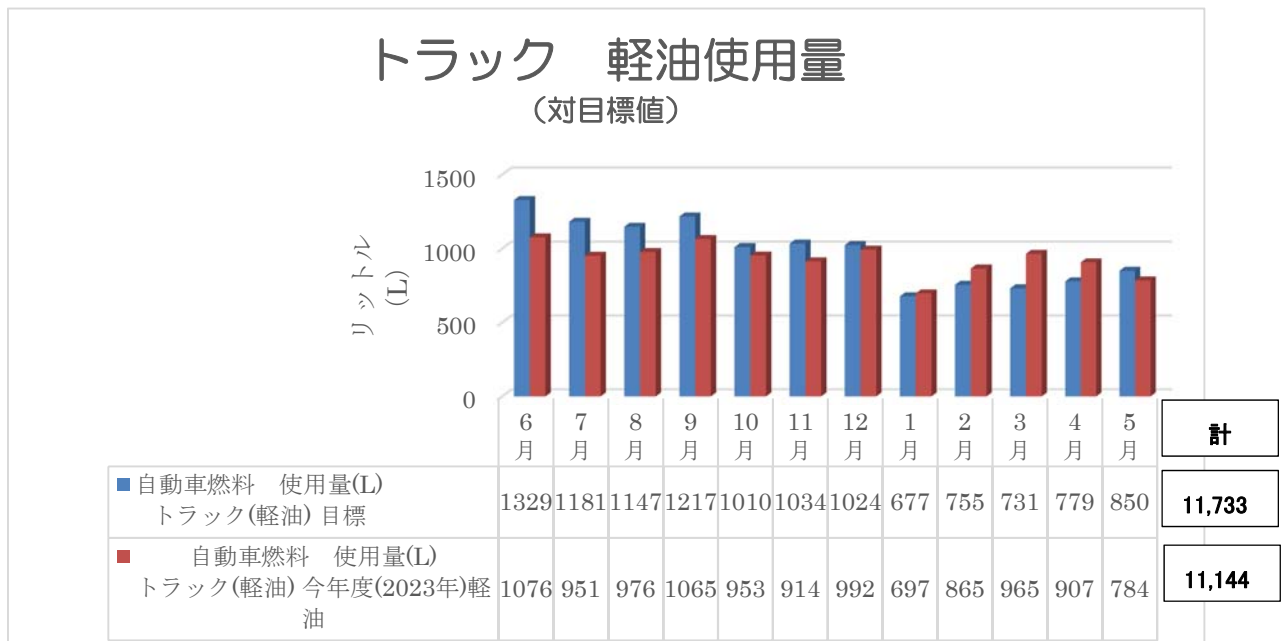
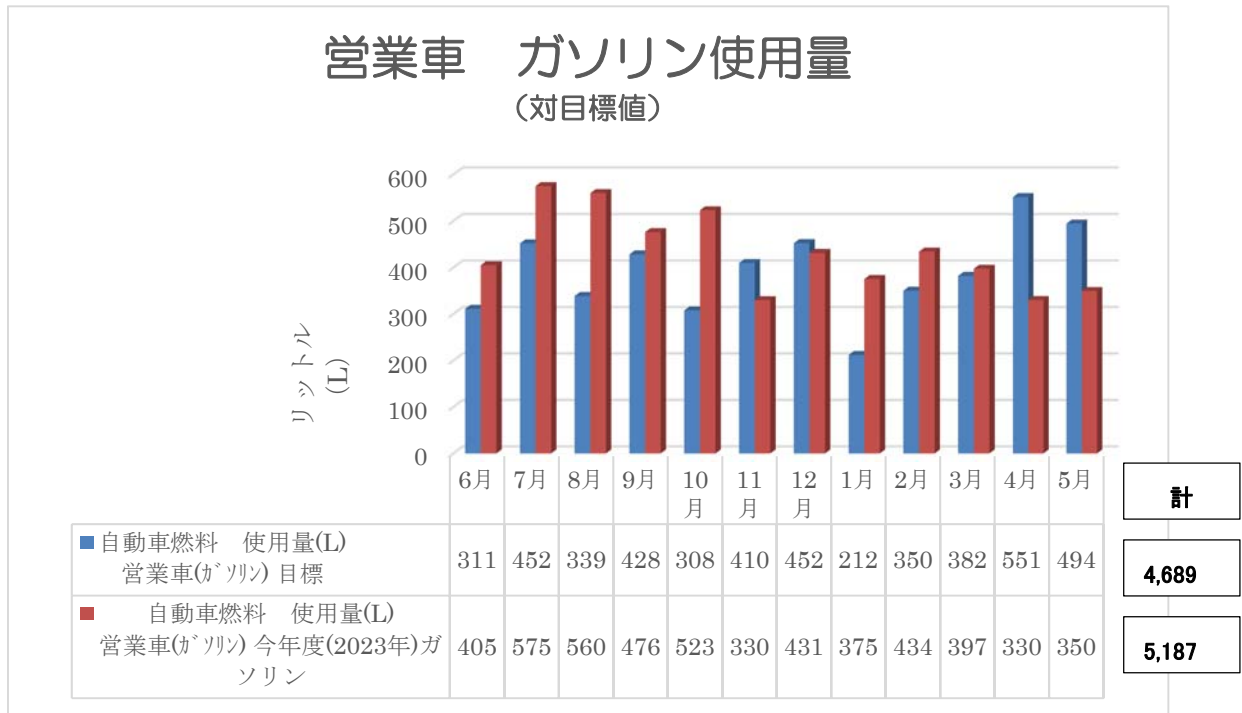


*中部電力実排出係数2013を使用（換算係数0.518 kg-CO₂/kWh）

※電力使用量 「補足資料」



※自動車燃料使用量 「補足資料」



【考察】 「補足資料」

目標値設定を具体的におこなう際、今期は対前年比で、売上が伸長著しく、電気使用量・自動車燃料使用量、共に昨年使用量を大幅に越えてしまう。

よって、前年度とは単純に比較できないため、電気使用量・自動車燃料使用量共に売上伸長率を加味したうえで、削減目標に反映させ、目標値を「グラフ①目標値」と設定した。

8. 環境経営活動の取組評価

2023年度（2023年6月～2024年5月）																						
目標項目	単位	目標		実績	達成率	評価																
		目標削減率	目標値																			
【目標1】	電力使用量の削減活動	kWh	0.5%	42,501	41,219	103.1%	○															
【目標2】	自動車燃料の削減活動	L	0.5%	16,422	16,330	100.6%	○															
※【目標1・2】 電力・自動車燃料のCO2排出換算	CO2排出量の削減	kg-CO2	0.5%	63,635	62,581	101.7%	○															
	CO2排出量の総量（目標外の灯油と都市ガスを含む）				64,551																	
【目標3】	水道水の削減活動	m ³	0.5%	223	179	124.6%	○															
【目標4】	グリーン購入に関する活動 （購入件数）	事務（件）	—	10	16	160.0%	○															
		工場（件）	—	10	33	330.0%	○															
		倉庫（件）	—	10	13	130.0%	○															
【目標5】	設計における材料削減活動	件	0.5% ※0.5%以上の改善を25件以上	25	26	104.0%	○															
【目標6】	梱包作業改善活動	件	5% ※5%以上の改善を5件以上	5	6	120.0%	○															
【目標7】	IoTアクション21の啓発活動	件	—	1	1	100.0%	△															
【目標8】	廃棄物の削減・リユース活動	件	—	1	1	100.0%	○															
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">※評価基準</th> </tr> <tr> <th>目標値達成状況</th> <th>達成率</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>達成</td> <td>105%以上</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>達成</td> <td>100～105%未満</td> <td>△</td> </tr> <tr> <td>未達</td> <td>100%未満</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>								※評価基準			目標値達成状況	達成率	評価	達成	105%以上	○	達成	100～105%未満	△	未達	100%未満	×
※評価基準																						
目標値達成状況	達成率	評価																				
達成	105%以上	○																				
達成	100～105%未満	△																				
未達	100%未満	×																				
■環境活動の取組に対する評価と次年度の取組■																						
【目標1】	<p>コロナ禍から抜け出した前期では、半導体の供給不足が解消され、生産量が増加しました。それに伴い、弊社のパッケージ供給量も大幅に増加しましたが、实体经济は完全には回復しておらず、2024年に入ってからは生産量が大きく落ち込みました。この影響で、社内の生産量も大幅に減少し、電気使用量の低下につながったことが、主な電力使用量減少の要因となっています。さらに、電力使用量削減の取り組みとして、社内の電気設備の見直しを行い、漏電リスクを減らすための配線再構築工事を実施しました。これにより、無駄を削減する施策を進めた結果、目標達成に寄与したと考えております。</p>																					
【目標2】	<p>先述の通り、後半は出荷量が大幅に減少したことで、配送に使用されるトラックの稼働も大きく落ち込みました。しかし、遠方の顧客からの需要が増加したため、燃料の削減には至りませんでした。前期と比較すると、結果的に非効率な経営状況に陥っていたことが、この数値からも明らかです。今後は配送経路の集約など、配送業務の効率化を再検討してまいります。</p>																					
【目標3】	<p>水道水の使用量については、水を使用する現場の減少や、生産量の落ち込みが大きな要因であったと考えています。さらに、工程の改善により、ボンドなど水を使用する作業を削減できる設計仕様に変更したことも、水使用量の削減に寄与したと考えています。</p>																					
【目標4】	<p>昨年の調査に引き続き、トライアル購入を実施しました。三つの作業エリアに分けてグリーン購入を行い、使いやすさや品質を確認した上で、今後の購入アイテム選定に活用してまいります。</p>																					
【目標5】	<p>新規開拓を進めている大手企業においても、コスト削減活動が活発であることから、成果を実現できております。今後も引き続き、お客様にご評価いただける設計や提案を行ってまいります。</p>																					
【目標6】	<p>顧客先での在庫スペースおよび管理業務を5%以上削減できた設計件数は6件となり、前期に引き続き、今年度の目標をなんとか達成することができました。今後はさらに改善提案に注力し、改善件数を増やすことで、より一層お客様への貢献を目指してまいります。</p>																					
【目標7】	<p>BtoBtoC市場への参入により、これまでの活動が大いに評価され始めていると感じております。その最たる例として、家具業界の商品として申請し、2022年のGOOD DESIGN賞を受賞した「スウェイレイ」に採用された段ボール製フレームがあります。これは、従来主流であった木製フレームからの転換が大きな話題となり、新たな市場でエコアクション21を訴求する良いきっかけとなっています。また、弊社がこれまでエコアクション21に取り組んできたことで培われた環境意識の高さが、この「スウェイレイ」の商品開発に活かされ、評価につながったと考えております。</p>																					
【目標8】	<p>これまで想定していなかった家具業界にもエコの意識を持ち込むことができ、今後さらに広がりを見せると感じております。この流れをさらに活性化させるため、今後も新たな商品開発に積極的に挑戦してまいります。</p>																					

※中部電力実排出係数2013を使用（換算係数0.518 kg-CO2/kwh）

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

SDGs の認知はますます拡大し、日本国内でも中小企業を含めた多様な企業が具体的な取り組みを進める機運が高まっています。しかし、実際に持続可能な目標を意識した活動を全社的に実現している企業は、まだ一部に留まる現状です。

こうした状況の中、弊社では「エコアクション 21」にいち早く取り組んでまいりました。この活動を通じ、具体的な改善だけでなく、次なる目標を自ら設定し、社員一人ひとりがその目標に向かい意識を持って行動する風土が着実に醸成されてきたことを実感しております。

特に、コスト意識を高めるために「管理会計」を導入し、光熱費や在庫管理、お客様へのサンプル提出に至るまで費用を計上する仕組みを構築しました。この取り組みは、在庫置き場や材料調達の見直し、リードタイムの改善など、ヴァリューチェーン全体の最適化を推進し、協力会社様とも連携した改善活動へと広がりました。

一方で、2024 年には円安進行やインフレの長期化、エネルギー価格の高騰、さらには地政学的リスクによるサプライチェーンの混乱など、経営環境の不確実性がさらに増した年でもありました。このような環境下において、弊社は社員一人ひとりのコスト意識をさらに高め、生産性向上に努めてまいりました。

また、新たな挑戦として、パッケージに限らず多様なモノづくりに取り組む中で、段ボールを用いた家具の製造から始まり、本格的な木製家具製造への進出を果たしました。この挑戦は、弊社にとってビジネスモデルの大きな転換点であり、キャッシュフローの多様化だけでなく、ヴァリューチェーン全体の見直しを進めるきっかけとなっています。社員たちは、この変化を成長の機会と捉え、真剣に向き合い、新たなスキルを身につける姿勢を示しています。このような社員の努力は、エコ=コストの意識を高めることで「エコアクション 21」の取り組みにも好循環をもたらしていると感じています。

今後も、生産コストや販管費の削減、CO2 排出量の削減に向けた活動を推進しながら、より良い結果を目指して社員一丸となって成長してまいります。

【総括】

- 環境経営方針：SDGs 取組を追加する。
- 環境経営目標及び環境経営計画：COVID-19 の影響を鑑み適時見直す。
- 実施体制：特に変更なし

2024 年 6 月 20 日
代表取締役 佐野 博政

10. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

				2024年6月15日
NO.	法令等	要求事項	適用される設備等	確認結果
1	エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)	・エネルギー使用者の努力義務 ・事業者の判断の基準となるべき事項	工場内設備 事務所・工場内の照明 エアコン PC・家電品	○
2	廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃掃法)	・産業廃棄物の運搬・処理の委託契約締結	産業廃棄物(鈮光寺ラボ)	○
3	名古屋市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例	・事業者が行う廃棄物の発生の抑制及び再利用 ・事業系廃棄物の適正処理	一般廃棄物 (事務所・工場内の照明)	○
4	資源の有効な利用の促進に関する法律 (資源有効利用促進法)	・原材料等の使用の合理化を行うとともに、再生資源及び再生部品を利用するよう努める。 ・事業に係る製品が長期間使用の促進、その製品の廃棄された後の再生部品として利用することに努める。	梱包材・緩衝材	○
5	特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)	・家電電を排出する事業者も引き渡し、支払いの義務	エアコン・テレビ・冷蔵庫・洗濯機・PC・家電品	○
6	使用済自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)	・使用済みとなった自動車を引き取り業者に引き渡す義務 ・リサイクル費用を資金管理人に対して委託する義務	営業車 トラック	○
7	自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量削減等に関する特別措置法(自動車NOx・PM法)	・自動車排出窒素酸化物等の排出の抑制に努める ・道路運送車両法 に基づく命令を定める。	営業車、トラック	○
8	市民の健康と安全を確保する環境保全に関する条例	・アイドリングストップ	営業車、トラック	○
9	国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(グリーン購入法)	物品を購入等の場合には、できる限り環境物品等を選択するよう努める。	購入製品	○
10	フロン排出抑制法	・冷凍空調機器の簡易点検・定期点検の義務化 ・漏洩を発見した場合の、速やかな漏洩箇所の特定及び修理 ・機器の点検・修理やフロン類の充填・回収糖の機器整備に関する履歴の記録・保存義務 ・算定漏洩料の報告 ・機器を廃棄する際の、フロン類の回収義務	工場及び事務所のエアコン	○
11	浄化槽法	・7条、11条、8条、9条	鈮光寺ラボの浄化槽	○

※2017年6月以降は空調機器の簡易点検・定期点検の

「環境関連法規等の遵守状況」

義務化を図り、改善され適合しております。

【環境関連法規への違反、訴訟等の有無】

環境関連法規に対する遵守状況は、2017年5月末時点での見直しにより、フロン排出抑制法に適合させられましたが、現在も全て適合しております。

また、関係当局より、違反等の指摘は、過去5年間ありませんでした。

当社は、化学物質は使用しておりませんが、数年前まで「ボンド」にわずかながら「フタル酸-n-ブチル」が含まれておりました。しかし、ボンドメーカーによると、現在は含まれておらず、PRTR制度対象物質として使用量の把握をする必要がなくなりました。

ですが、現場では使用時にマスク装着と換気を行う等細心の注意をしております。

更に、環境に関して、弊社がステークホルダーに与える影響に問題は無く、苦情・訴訟などもありませんでした。